

補綴マニュアル



メタルボンドクラウン 2-9

アバットメントレベル直接印象採得..... 3

クラウンのセメント固定..... 4

ノンショルダーアバットメントシステム 5-6

印象採得方法 7

暫間補綴処置 8

ノンショルダーアバットメント選択ガイド 9

ブレビスオーバーデンチャーシステム 10-18

ブレビスアバットメントシステム 11-12

ブレビスチェアサイドテクニック 13-16

ブレビス間接印象テクニック 17

ラバー製O-リングのメンテナンス 18

メタルボンドクラウン





1 アバットメント装着

インプラント二次手術後、歯間乳頭をサポートできるアバットメントのうち、最も径が大きいものを選択しタッピング装着します。



2 アバットメントの形態修正

必要に応じて、#1557カーバイドバーを用いアバットメントの形態修正をします。口腔内で形態修正をする際には、発熱による周囲組織の損傷を防ぐため注水下にて行います。



3 印象採得

アバットメント周囲に印象材を注入して印象採得し、作業模型を作製します。以後はクラウンブリッジと同様の手順で上部構造を作製します。



4 メタルトライ

ポーセレン焼成前にメタルを試適します。

クラウンのセメント固定



クラウン

コンタクト、咬合、カントウアを調整後、必要最少量のセメントをクラウンマージン部に塗布し、浮き上がりに注意しながらアバットメントに固定します。余剰セメントの取り残しがないよう注意します。

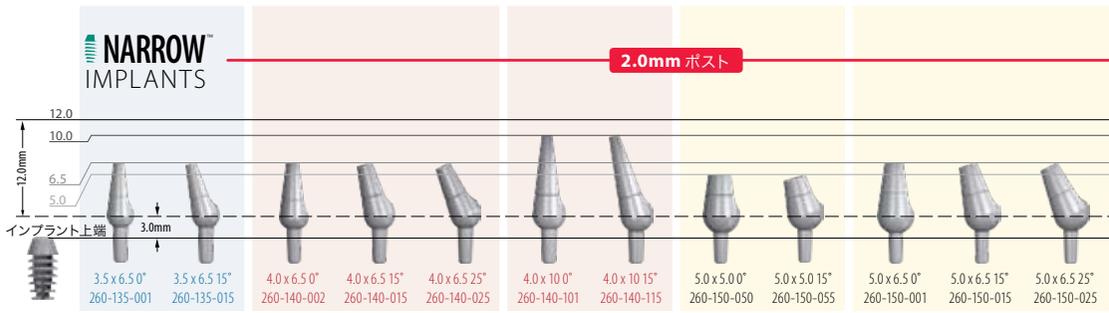
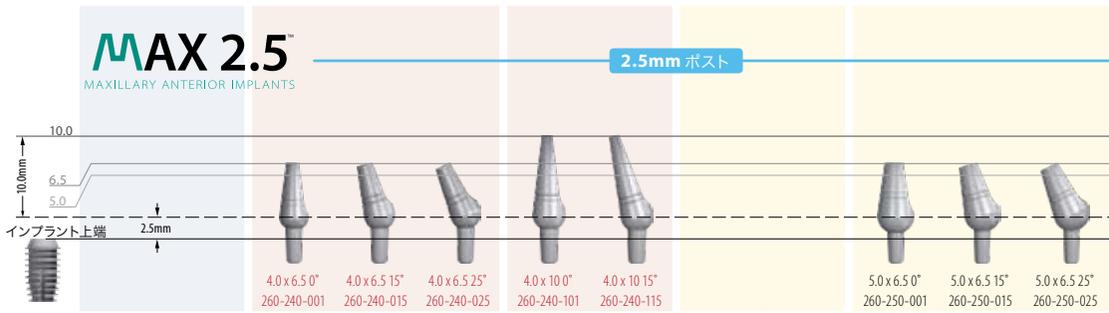
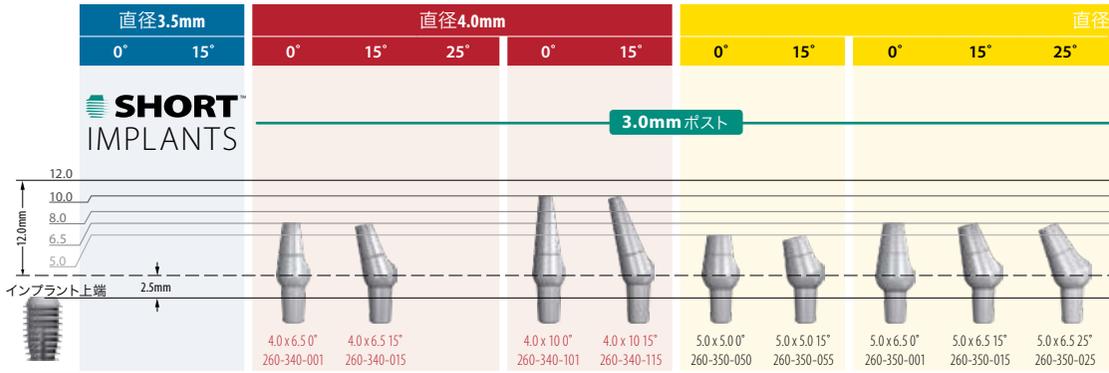


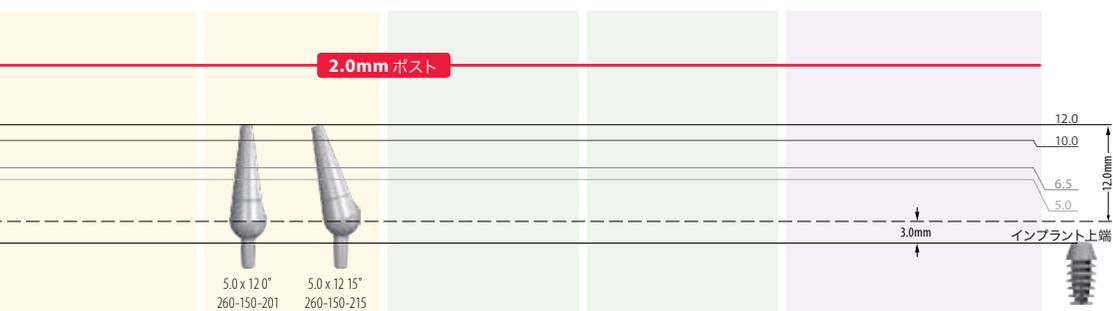
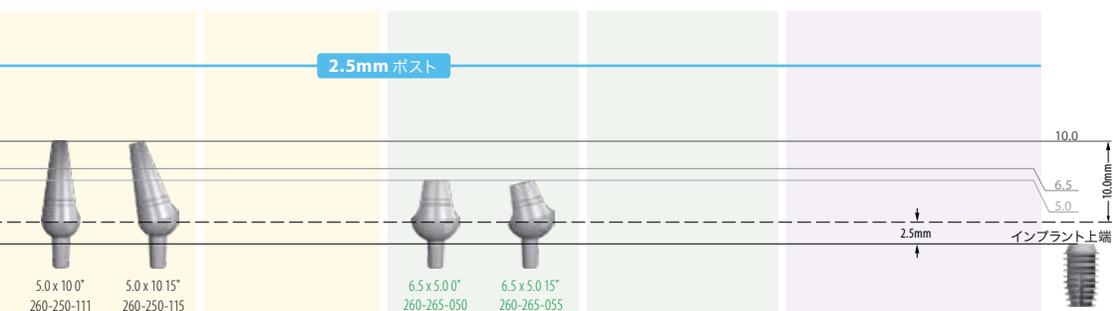
咬合の再確認

セメント固定後、咬合を再確認します。

▶ Keys to Success

- 歯間乳頭をサポートできるアバットメントのうち、最も径が大きいものを選択します。
- 直径3.5mmのアバットメントは下顎切歯部のみを使用することをお勧めします。直径4.0mmのアバットメントは主に上顎側切歯部および小白歯部に使用します。直径5.0mmのアバットメントはいずれの部位にも使用できます。直径6.5mmおよび7.5mmのアバットメントは臼歯部に適しています。ノンショルダーアバットメントは360° 理想的な位置設定が可能です。
- 口腔外でアバットメントを形態修正する際は、スレッドアバットメントホルダー(260-101-395)に装着して行います。
- 口腔内でアバットメントを形態修正する際は、注水下にて行います。
- エマーゼンスカフを装着した状態でアバットメントの印象採得を行わないでください。
- 印象採得の際、歯肉圧排糸を使用する必要はありません。
- エマーゼンスカフは、歯肉圧排を目的として使用します。
- クラウンマージンはナイフエッジもしくはフェザーエッジとし、歯肉縁上もしくは縁下に設定します。
- 必要最少量のセメントをクラウンマージン部に塗布し、浮き上がりに注意しながらセメント固定します。





OPTION ONE: インプラントレベル印象採得



1 インプラントの直径に従ってインプレッションポストを選択します。



2 指圧にてインプレッションポストをインプラント体に装着します。



3 インプレッションスリーブをインプレッションポストに装着します。



4 インプレッションスリーブ周囲に印象材を注入して印象採得をします。



5 印象採得後、インプレッションスリーブは印象面に取り込まれ、インプレッションポストは口腔内に装着された状態のままとなるようにします。



6 口腔内からインプレッションポストを除去し、インプラントアナログに装着します。組み立てたインプレッションポストとインプラントアナログを印象面のインプレッションスリーブへ装着します。

	ポスト (チタン 合金製)	スリーブ (プラスチ ック製)	アナログ (チタン 合金製)
2.0mm			
2.5mm			
3.0mm			

OPTION TWO: アバットメントレベル直接印象採得



1 適切なサイズのアバットメントを選択し、タッピングをしてインプラント体に装着します。



2 必要に応じて口腔内または口腔外でアバットメントを形態修正します。



3 アバットメント周囲に印象材を注入して印象採得をします。作業模型を作製します。



4 従来通りクラウンを作製し、セメント固定します。

暫間補綴処置

OPTION ONE: プラスチックスリーブを用いた暫間補綴



1 適切なノンショルダアパットメントもしくはステルスアパットメントを選択しインプラント体に装着します。



2 インプラントならびにアパットメントの長軸方向に一致するようアパットメントをタッピングします。



3 アパットメントの平面部とプラスチックスリーブの平面部が合致するよう装着します。



4 バキュームフォームテンプレートを用いてプラスチックスリーブの位置関係を確認します。必要に応じてプラスチックスリーブの形態を修正します。



5 プラスチックスリーブ周囲にレジンを注入します。



6 バキュームフォームテンプレート内にもレジンを注入し、プラスチックスリーブと一体化させます。



7 口腔内からレジンを除去し、整形ならびに研磨します。



8 完成したテンポラリークラウンを仮着し、審美的なエマーゼンスプロファイルを付与します。

OPTION TWO: テンポラリーアパットメントもしくはヒーリングアパットメントを用いた暫間補綴



二次手術時にテンポラリーアパットメントもしくはヒーリングアパットメントを用いることによって審美的なサルカスの形成が可能となります。テンポラリーアパットメントおよびヒーリングアパットメントは咬合圧や舌圧がかからず、歯間乳頭を効率的にサポートできる高径のものをご使用下さい。

これらのアパットメント上にはテンポラリークラウンを装着しないようにしてください。アパットメントのサイズや形態につきましては、製品カタログをご参照ください。

OPTION THREE: 審美部位における暫間補綴



1 適切なサイズのテンポラリーアパットメントを選択します。



2 テンポラリーアパットメントをインプラント体に装着します。アパットメントを除去する場合には、抜歯鉗子もしくはアパットメント除去用フォーセップスを用います。



3 審美部位における多数歯欠損では、ノンクラスプ義歯を裏層することによって暫間補綴とします。



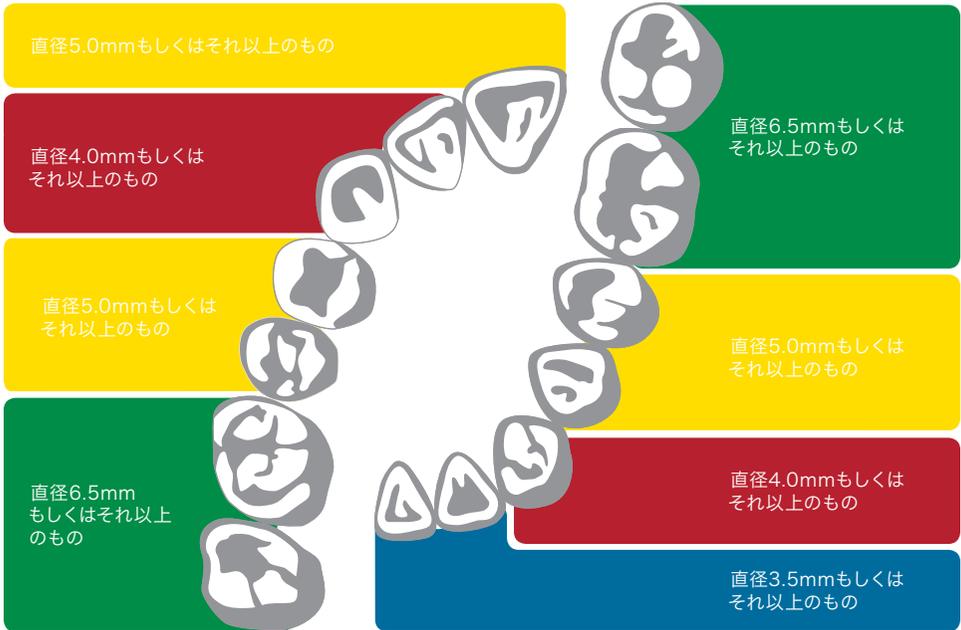
4 ノンクラスプ義歯を装着した状態。

- ・こちらのマニュアルには日本で取り扱いのない製品も含まれております。
- ・該当製品の授与・販売は承ることができませんので何卒ご理解ご了承のほどお願い申し上げます。

ノンショルダーアバットメント選択ガイド*

上顎

下顎



*これらの選択方法は、あくまでも目安としていただくものであり、臨床においては口腔内を診査したうえで適切なサイズのアバットメントをご選択下さい。

ブレビス オーバーデンチャーシステム




BREVIS™

ブレビスアバットメント*

2.0mm ポスト

高径	角度	製品番号	0°	15°
2.0mm	0°	260-100-404		
2.0mm	15°	260-100-405		
4.0mm	0°	260-100-406		
4.0mm	15°	260-100-407		
6.0mm	0°	260-100-408		
6.0mm	15°	260-100-409		

ブレビスアバットメント*

2.5mm ポスト

高径	角度	製品番号	0°	15°
2.0mm	0°	260-250-424		
2.0mm	15°	260-250-425		
4.0mm	0°	260-250-426		
4.0mm	15°	260-250-427		
6.0mm	0°	260-250-428		
6.0mm	15°	260-250-429		

ブレビスアバットメント*

3.0mm ポスト

高径	角度	製品番号	0°	15°
2.0mm	0°	260-300-434		
2.0mm	15°	260-300-435		
4.0mm	0°	260-300-436		
4.0mm	15°	260-300-437		
6.0mm	0°	260-300-438		
6.0mm	15°	260-300-439		

*ブレビスアバットメントにはブレビスハウジングが1個付属しています。

ブレビスアバットメントシステム

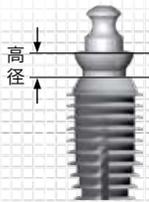
補綴用コンポーネント

製品名	製品番号	製品写真	
ブレビスチェアサイドキット	260-100-212		
ブレビスインプレッションキット (ハウジング無)	260-100-218		
ブレビスインプレッションキット	260-100-217		
			
ラバー製O-リング(10)	260-100-014		

▶測定ガイド

バイコンアバットメントの半球状の基部は、完全に装着されている状態でもインプラント体と接触しないよう設計されています。レントゲン上でも確認する事ができます。

ブレビスアバットメント



▶ブレビスアバットメント

インプラントの上端からアバットメントのショルダー部分までが高径です。高径は2.0、4.0、6.0mmがあります。インプラントの上端からアバットメントの上端まではおおよそ5.0、7.0、9.0mmです。





1

咬合採得

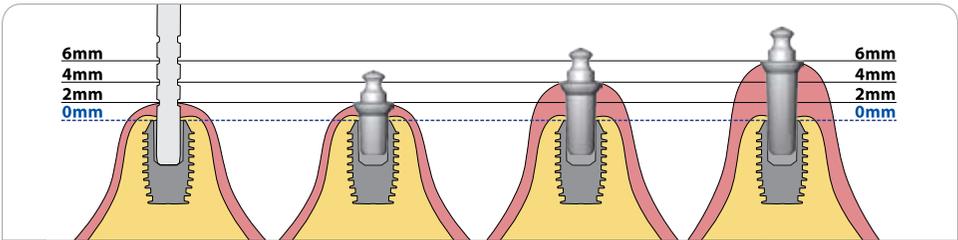
アバットメントやハウジング装着時にバイトが狂わないようにするため、義歯を装着した状態で咬合採得をしておきます。



2

インプラント二次手術

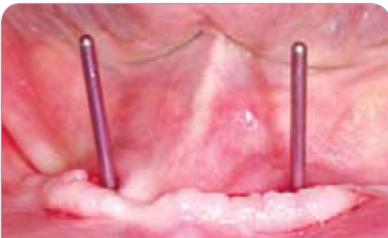
歯肉を切開したのち、ヒーリングプラグリムーバーを用いてヒーリングプラグを除去します。



3

ブレビスアバットメントの選択

アバットメントシヨルダータブスゲージを用いてアバットメントの高径を決定します。



4

ガイドピン装着

ガイドピンをインプラント内に装着し、アバットメントの角度を決定します。

ブレビスチェアサイドテクニック



それぞれのアバットメントが平行になるよう0°もしくは15°を選択し装着します。プレビスアバットメントの高径は2.0、4.0、6.0mmがあります。



義歯のアバットメント位置づけ部位にブルーワックスを付着させます。アバットメント上部にマーカで印記し、義歯を装着してブルーワックス上にアバットメントの位置を記録します。



各アバットメントにプレビスハウジングを装着します。



プレビスハウジングとのクリアランスが十分に得られるよう確認しながら義歯をリリースします。



9

ハウジング除去

口腔内よりハウジングを一時除去したのち、10mm角のラバーダムシート中心部に穴をあけてアバットメントに装着し、再度ハウジングを装着します。ラバーダムシートは、アバットメントのアンダーカット部に余剰レジンが入り込むのを防ぐために使用します。



10

ワセリン塗布

アバットメントとブレビスハウジング間にレジンが入り込まないようにラバーダムシート下にワセリンを塗布します。



11

レジン注入

ブレビスハウジング周囲とリリースした義歯粘膜面にレジン注入します。



12

硬化

義歯を口腔内に装着し、ズレや浮き上がりのないようロールワッテを両側で均等に咬合させます。

ブレビスチェアサイドテクニック



レジン研磨

ブレビスハウジングが義歯に取り込まれているのを確認したのち、ラバーダムシートを除去してレジンを研磨します。



レントゲン

レントゲン上でインプラント体にブレビスアバットメントが装着されているのが確認できます。粘度の高いレジンを使用したり、義歯のみだけでなくブレビスハウジング周囲にもレジンを塗布しないとブレビスハウジングがアバットメントに適切に装着されない可能性があります。

Note: レジン硬化後に義歯が取り外せなくなってしまう場合は、レジンを削合するよりもリムーバーを使用して義歯ごとインプラント体からアバットメントを取り外します。

▶ Keys to Success

- チェアサイドテクニックを施行する際には、義歯の浮き上がりやズレを防ぐため、予め咬合採得をしておきます。
- 各インプラントの平行性が得られない場合には15°のブレビスアバットメントを使用します。
- オーバーデンチャーは粘膜支持とし、アバットメントやハウジング支持にならないようにします。
- ブレビスアバットメントを直接印象採得しないでください。
- アバットメントのアンダーカット部に余剰レジンが入り込まないようにラバーダムシートとワセリンを使用します。
- シリンジを使用してレジンを口腔内や義歯に注入すると、操作性に優れ有用です。
- 粘度の高いレジンを使用するとブレビスハウジングがアバットメントに適切に装着されなかったり義歯が浮き上がってしまう可能性があります。
- 義歯のレジン硬化を待つ間は、ロールワッテを両側で均等に咬合せませます。
- 余剰レジンがハウジング内に入り込んでしまった場合はラウンドバーなどで削合します。
- ブレビスハウジングが適切に装着されていない状態で義歯を使用しているとラバー製O-リングの劣化を早めてしまう可能性があります。



それぞれのアバットメントが平行になるよう0°もしくは15°を選択し装着します。ブレビスアバットメントの高径は2.0、4.0、6.0mmがあります。



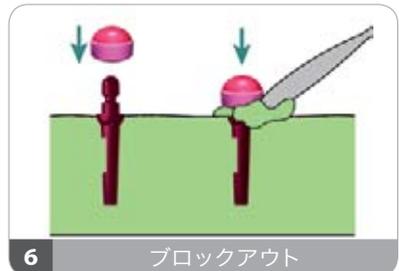
ブレビスアバットメント上にアライメントキャップを装着します。



アライメントキャップを装着した状態で印象採得します。アバットメントを直接印象採得しないで下さい。

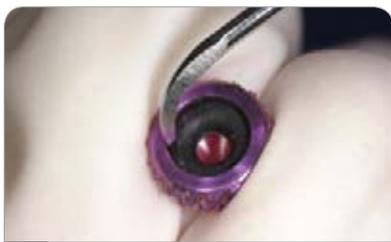


トランスファーダイを印象面のアライメントキャップに装着し、作業模型を作製します。



模型のアンダーカットをブロックアウトし、義歯にブレビスを組み込みます。

ラバー製O-リングのメンテナンス



1 O-リング除去

スケーラーもしくは探針を用いてプレビスハウジング内のラバー製O-リングを除去します。



2 探針の挿入

プレビスハウジングとラバー製O-リング間に探針の先端を挿入し、除去します。



3 O-リング挿入

ピンセットを用いて新しいラバー製O-リングを8の字状に把持し、ハウジング内に挿入します。



4 O-リング装着

プレビスハウジング内の保持溝にラバー製O-リングを装着します。



5 O-リング位置の確認

ラバー製O-リングが保持溝内に収まっているかを確認します。

▶ Keys to Success

- 症例によっても異なりますが、ラバー製O-リングは6～24ヶ月ごとに交換が必要です。
- ラバー製O-リングはアルコール含有量の高い溶液に浸漬しないようにしてください。ラバーの劣化により適切な維持力を得られなくなってしまう可能性があります。
- プレビスハウジングが適切に装着されていない状態で義歯を使用しているとラバーの劣化を早めてしまう可能性があります。
- ラバー製O-リングが過剰に劣化してしまう場合には、義歯内のハウジングを一度すべて除去し、再配列される事をお勧め致します。



bicon[®]
DENTAL IMPLANTS

WORLD HEADQUARTERS

501 Arborway
Boston, MA 02130 USA
tel: 800.88.BICON 617.524.4443
fax: 800.28.BICON 617.524.0096
web: www.bicon.com
e-mail: support@bicon.com

バイコンジャパン株式会社

〒104-0061
東京都中央区銀座1-9-6
松岡第二銀緑館
tel: 0120-8150-62
fax: 0120-418-117
web: www.bicon.co.jp
e-mail: info@bicon.co.jp

